

日常生活圏における 場所経験価値の評価手法に関する研究

湯川 竜馬¹・山口 敬太²・久保田 善明³・川崎 雅史⁴

¹正会員 株式会社日建設シビル (〒541-0054 大阪市中央区南本町3-6-14)

E-mail: yukawa.ryoma@nikken.jp

²正会員 京都大学准教授 大学院工学研究科 (〒615-8540 京都市西京区京都大学桂)

E-mail: yamaguchi.keita.8m@kyoto-u.ac.jp

³正会員 富山大学教授 学術研究部 都市デザイン学系 (〒930-8555 富山県富山市五福3190)

E-mail: kubota@sus.u-toyama.ac.jp

⁴正会員 京都大学教授 大学院工学研究科 (〒615-8540 京都市西京区京都大学桂)

E-mail: kawasaki.masashi.7s@kyoto-u.ac.jp

本研究は、住民が暮らす日常生活圏内の「大切な場所」に着目し、場所に対する価値づけのあり方を明らかにするものである。具体的には、奈良市内8地区を対象にアンケート調査を実施し、その考察にあたり経営分野で用いられる戦略的経験価値モジュールを援用して、場所経験価値を5つに類型化した上で、その具体的内容と全体像を明らかにした。すなわち、場所経験価値として、1)感覚に関わる景観の美しさや自然の豊かさ、2)感情に関わる安らぎや誇らしさなど、3)解釈に関わるなじみや想起される姿、4)紐帯に関わる共同体や先人とのつながり、5)規範に関わる信仰、歴史・伝統などがあり、各特徴や想起の程度、場所との関わりを明らかにした。これにより、地域資源としての場所の価値を住民の経験に基づいて評価する新たな手法の有効性を示した。

Key Words : *Place's Experiential Property Modules, regional planning, shared value, evaluation method, Place Attachment*

1. 序論

(1) 研究の背景

住民主体のまちづくりや地域計画が進められて久しく、文化的・歴史的な地域資源を公的に守る仕組みは整えられつつある。しかし、住民が地域に対して抱く愛着などの観念¹⁾や価値意識を実際の空間計画に反映する取り組みは十分には進んでおらず²⁾、住民の価値意識を考慮する手続きや具体的な手法の開発が求められている。たとえば、個人とコミュニティの双方にとって場所が「個人的なまたは社会的に共有されたアイデンティティの重要な源泉」であり、「人々が深く感情的かつ心理的に結びついている人間存在の根源」にもなり得ることや³⁾、場所への愛(Topophilia)⁴⁾や、場所への愛着(Place Attachment)⁵⁾などの重要性は広く認識されているが、地域住民にとっての場所の意味や価値を空間計画に反映させるための方法論は未だ確立しておらず、計画論としての手法構築の必要性が指摘されている⁶⁾。

コミュニティ・スケールの地域空間計画は、地域の住民がこれまでの生活の蓄積から見出す土地の意味や価値に基づくものであることが期待される。場所の意味や価値は、住民の過去の体験や記憶を手がかりに把握することが可能と考えるが、そこには以下のような課題がある。

- [1] 住民自身が場所の意味や価値を自覚していない場合がある。よって、直接的に尋ねたとしても、十分な回答を得られない可能性がある。
- [2] 地域の歴史的・文化的背景や個人の経験には多様な要素や関係性が含まれており、その場所に個人が抱く意味や価値は異なる。よって、地域において共有され得る意味や価値を事前に推定し、調査・分析を行うことは容易ではない。
- [3] 実際の地域のまちづくりへの活用・反映にあたり、調査・分析に費やせる作業の時間や予算が限られている場合があり、信頼性があり効率的である方法論が求められる。

住民の土地に対する意識や愛着といった側面を把握・

表-1 既往研究に用いられる主な手法とその特徴

調査の目的	調査方法 (一次データの 取得)	データ加工の 有無とその主 な方法(二次 データ化)	取得できる 主なデータ内容	主な考察方法	手法の特徴
評価対象の 明確化・数 値化	選択式評価・ 形容詞対評価 アンケート ^{7), 8), 9)}	特になし	選択式評価や形 容詞対評価の点 数, 回答数	対象者属性や因子間の関 係性に関する考察	・検証したい評価指標が定まっており, 評価 対象と指標の関係性を把握する場合に適する ・回答結果を定量的に評価することができ, 汎用性・再現性の高い手法である
	地点識別法 ^{10), 11)}	特になし	識別地点の回答 数	地点や属性ごとの景観認 知の強度に関する考察	・認知の強弱を把握したい景観が定まってい る場合に適する
	自由記述, 対 面式インタビ ュー ^{12), 13), 14)}	テキストマイ ニング, 松下 文法, 橋本文 法	記述・口述され た言葉とその出 現数	対象者属性や因子間の関 係性に関する考察	・自由度の高い記述や長時間のインタビュー 逐語録を評価する場合に適する ・回答結果を定量的に評価することができ, 汎用性・再現性の高い手法である
評価対象の 構造化・体 系化	写真連想法, 用語連想法 ^{15), 16), 17)}	特になし	連想した言葉の 種類と数	対象者属性や因子間の関 係性に関する考察	・特定の写真や用語に対する対象者のイメー ジや認識を把握する場合に適する
	写真投影法 ^{18), 19), 20)}	特になし	対象者撮影の写 真と撮影理由	撮影写真の特徴と理由の 相関関係や対象範囲にお ける視点場や視対象の特 徴に関する考察	・対象者の景観認識や印象を環境心理学的視 点で把握する場合に適する ・対象者自身が写真撮影をすることで, 本人 にしか見いだせない情報を視覚的記録と記述 から把握することが可能
	イメージマッ プ・スケッチ ^{21), 22), 23)}	特になし	スケッチとその 絵を描いた理由	スケッチの特徴と理由の 相関関係などに関する考 察	・あるテーマに対する対象者のイメージを視 覚的に把握する場合に適する ・調査の時期や場所を選ばずにイメージを取 得することが可能
	半構造化イン タビュー ^{24), 25), 26)}	コード化・カ テゴリ化	指定テーマに沿 った比較的自然 な語りデータ	コードやカテゴリーの構 造と語りの内容との関係 についての考察	・取得したい語りのテーマが明確であり, テ ーマに沿った対象者の自由な語りを把握した い場合に適する
	参与観察 ^{27), 28)}	特になし	観察記録と比較 的自然な対話に よる口述データ	観察結果と口述データの 関係性や特徴の考察	・対象者と良好な関係性が築けており, でき るだけ日常的生活状態や自然な語りを把握 する場合に適する
評価対象の 実態把握	ナラティブイン タビュー ²⁹⁾	特になし	調査者との会話 形式による口述 データ	会話内容や会話のやりと りによる構造的考察	・対象者の発言内容や会話の流れ, 語りの順 序などから, 対象者個人のもつ具体的な印象 や価値観を把握する場合に適する
	グループディス カッション ³⁰⁾	特になし	対象者同士の会 話形式による口 述データ	会話内容や会話のやりと りによる構造的考察	・各個人の背景や会話の中での立ち位置など をもとに, 集団内における会話の流れや内容 を把握する場合に適する
	ライフヒスト リー法 ^{31), 32)}	特になし	一定期間内の個 人史の記録	過去の体験に関する感情 や印象, 現在の状態との 関連性に関する考察	・調査テーマに沿った体験をしたことのある 個人が, その体験の前後でどのような変化が あったのかを把握する場合に適する
	エスノグラフ ィー ^{33), 34)}	特になし	現場の観察記録 と自然な対話に よる口述データ	集団や社会の内外からの 観察と記述による, その 文化や関係性の特徴や他 の集団や社会との差異に 関する考察	・対象者との良好な関係性が築けており, 長 期間共に行動することでしか見出せない慣習 や語りを把握する場合に適する

評価する研究手法は, 既往研究に多くの蓄積がある. 既往研究に用いられる手法は, その目的に応じて表-1 の通り大きく 3 つに分類できる.

第一に, 評価対象の明確化や数値化を目標とした手法であり, 具体的には選択式評価アンケートや地点識別法などがある. これらの手法は, 特定の景観要素や評価指標を基準として, その評価の強弱を定量的に図る場合に用いられる. また, 定量的な評価の難しい自由記述や口述インタビューの記録に対して, その中の用語の出現頻度を評価軸とするテキストマイニング分析の手法も用いられる.

第二に, 評価対象の構造化・体系化を目的とした手法であり, 具体的には写真投影法やイメージスケッチ, 参

与観察などが挙げられる. これらの手法は, 複雑で多面的な認識や意識, 愛着などに対して, 対象者自身が撮影した写真や描いたスケッチ, 対象者の行動観察を用いて, できるだけ実態をそのまま把握し, 分析しようと試みる点が特徴であり, 記述だけでなく視覚的な情報をふまえながら評価を行う. また, ある程度評価され得る対象が把握できている場合には, 写真連想法や半構造化インタビューを用いることで, 必要と考えられるデータを重点的に対象者から取得することも可能である.

第三には, 評価対象の実態把握を目的とした手法として, 主に社会学や民俗学の分野で多く用いられている, ナラティブインタビューやライフヒストリー法, エスノグラフィーなどが挙げられる. これらは, 上述の手法よ

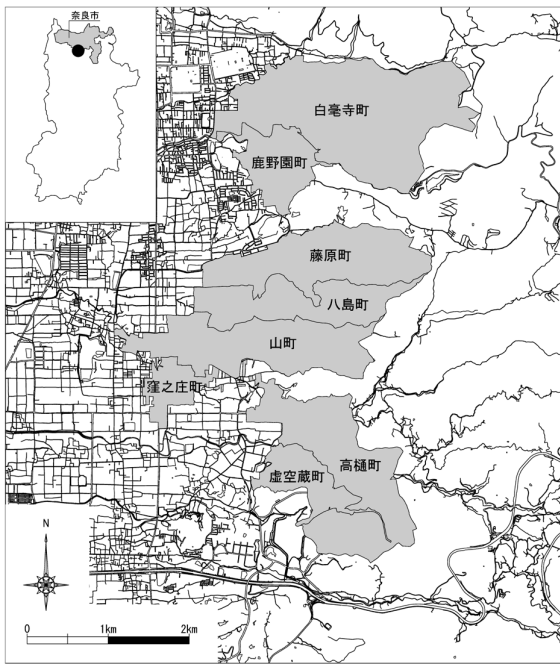


図-1 研究対象の奈良市奈良盆地東麓の8地区



図-2 研究対象地域の代表的な景観 (写真は高樋町)

りも調査者と対象者という関係性が薄まり、基本的に対等な関係を構築することが調査の前提条件となる。対等な関係であるからこそ見出せる対話の中の表現や、日常生活の行動や慣習を記録することで、対象者個人の具体的な考えや価値観、集団や組織の中での立ち振る舞いなどの実態を把握することが可能となる。

(2) 研究の目的と対象地

本研究は、評価対象の構造化・体系化を目指すものであるが、ここでいう評価対象は、地域住民の「大切な場所」とその理由であり、その全体像を把握し、体系的に示すことを目指す。一方で、本研究はまちづくり計画のための実装を目指した実践的手法の開発を目的としており、できる限りの簡易な方法をとることが望まれるため、多くの作業が必要となる半構造化インタビューや参与観察の方法はとらない。また、住民にとっての「大切な場所」の調査時に制約を与えることを避けるため、評価対

象を明確にする必要のある写真連想法や一人の対象者から複数の項目を取得しづらいイメージスケッチ法も採用しない。また「大切な場所」は、視覚的要素だけで評価できるとは限らず、現在はなくなってしまったところや物理的・身体的に行くことができなくなってしまった場所である可能性も考えられる。そのため、実際に対象者が足を運んで撮影を行う必要のある写真投影法も適用が困難である。

以上をふまえ、本研究では、住民が考える「大切な場所」とその理由の把握に適した新たな手法を提案し、その有効性を検討することとする。

具体的には、独自のアンケート調査に基づき、個人単位での「大切な場所」に関する具体的記述を詳細に分析することで、地域住民が日常の経験のなかで場所に対して抱く価値（これを「場所経験価値」と呼ぶ）のあり方の全体像と、その具体的特性を明らかにすることを目的とする。

研究の対象地は、図-1に示す奈良盆地東部の山裾に位置する8地区である。奈良市内にある本8地区は、西側に市街地、東側に春日山麓が連なり、その間の斜面地に集落と棚田が広がる良好な景観を保つ都市近郊農村地域（図-2参照）である。

後述する事前のヒアリング調査により、多くの住民が幼少期には近くの山に登り、山菜取りや薪拾いをしてしたことや、親の稲作の手伝い、河川や池での遊びや清掃の時の思い出をもつことを確認した。また、各町にいくつかの寺社があり、毎年の祭や神事への参加、先祖の墓参りなどに関する思い出も多く認められ、これらは8地区に共通の傾向であることを確認した。本8地区は、地形・土地利用のほか、住民の暮らしや歴史・地理・文化的背景が類似しており、日常生活圏の場所における経験に大きな共通性が認められるため、同一地域と見なして、アンケート調査分析においては全体をまとめて扱った。

2. 場所経験価値の分析手法と調査

(1) 場所経験価値の分析手法

調査手法の検討にあたり、前章で述べた [1]～[3] の課題を解決するために必要なことは、[1] 住民の自由で定型化されていない表現を対象とすること、[2] 事前に評価対象を限定せず、調査結果の住民の自由な表現に基づいた評価指標を設定すること、[3] 人手や時間を大きくかけず、かつ回答者の負担を極力少なくすることの3点である。これらの観点から評価手法を検討した結果、マーケティング分野の戦略的経験価値モジュール (SEM) 理論³⁹⁾を参照した手法に援用可能性があると考えた。

SEM 理論は、消費者の購買行動に価値ある経験が付

SEMのタイプ	SEMの知見	場所経験価値の種類	SEMの知見に基づいた類型化の判断基準（視点）
感覚的 経験価値 (SENSE)	人が抱く心的なイメージは、意味による記述ではなく画像として形成される。	感覚に関わる 場所経験価値 (SENSE)	暮らしの中で得た特定の場に対する視覚や聴覚などの五感におけるイメージに意味や価値を見出しているかどうか
情緒的 経験価値 (FEEL)	言語や文化に関わらず、人がもっている感情の種類は等しい。 感情の認知や表情における表現も等しい。	感情に関わる 場所経験価値 (FEEL)	暮らしの中で生じた特定の場への感情に意味や価値を見出しているかどうか
創造的・認知的 経験価値 (知的経験価値) (THINK)	人は自身の持ち得る情報から周囲の環境や意味を推論し、解釈を与えることで複雑で膨大な情報を類型化・理解している。	解釈に関わる 場所経験価値 (THINK)	暮らしの中で見出された特定の場に対する解釈に意味や価値を見出しているかどうか
準拠集団や文化との 関連づけに関わる 経験価値 (RELATE)	家族や友人といった他者との関係は、互いの恩恵を高めるための行動であり、それが保たれるように、人は利他的な行動を起こす。	紐帯の認識に関わる 場所経験価値 (RELATE)	暮らしの中で感じられた特定の場においての他者とのつながりに意味や価値を見出しているかどうか
肉体的経験価値と ライフスタイル全般 に関わる経験価値 (ACT)	人の行動は、環境の資源がその行動の可能性を人に提供(アフォード)し、それを人が発見することで生まれる。	規範の認識に関わる 場所経験価値 (ACT)	暮らしの中で規範化されている特定の場における行動や考え方に意味や価値を見出しているかどうか

図-3 SEMのタイプとその知見に基づいた場所経験価値の類型とその判断基準

加されることで、いかに消費者の満足度や購買意欲が高まるかを分析するための分析フレームであり、企業がブランディング戦略を立てたり、競合他社と自社の差別化を図る際に用いられる。その経験価値は心理学的な知見に基づいて5種に分類されている³⁰⁾。この5種の経験価値のうち、感覚的経験価値 (SENSE)、情緒的経験価値 (FEEL)、創造的・認知的経験価値 (THINK)、準拠集団や文化との関連づけに関わる経験価値 (RELATE) の4種は、進化心理学の分野でスティーブン・ピンカーが提唱する「心のモジュール性」の理論に基づくものである。肉体的経験価値とライフスタイル全般に関わる経験価値 (ACT) は、生態心理学の分野でジェームズ・J・ギブソンが提唱した「アフォードダンス」理論に基づくものである。SEM理論を場所経験価値の評価に活用する利点として、SEM理論は上述の通り多面的で複雑な価値の整理、分類に有効であることが挙げられる。アンケート時にあらかじめ選択肢を用意せず、自由記述をもとに情報を整理することが可能であり、事前に評価指標を設定することが困難な価値や、住民自身が意味や価値を自覚していない価値に対しても検討することが可能であると考えられる。

SEMは企業のマーケティング分析のための実践的手法であり、学術的な理論として体系化されているわけではない。しかし、現存企業を対象としたこれまでの既往研究の蓄積³⁷⁾や、関連研究をふまえた概念と方法論に関する考察³⁸⁾がなされていることから、その実用性、有効性は一定確立されているといえる。

以上より、本研究ではSEM理論を活用し、場所経験価値を評価するための実践的手法の検討を行う。具体的には、図-3のようにSEM理論の各経験価値タイプをふまえて、感覚、感情、解釈、紐帯の認識、規範の認識の5種類の場所経験価値を定義し、場所経験価値に適した分析の枠組みを設定する。これを場所経験価値モジュール

（Place's Experiential Property Modules, 以下 PEPM）と呼ぶ。この分析の枠組みは仮説的に設定するものであり、具体的考察を通じてその有効性の検討を行うこととする。

(2) 「大切な場所」に関するアンケート調査

本研究では、日常生活圏内における経験に基づく場所の価値を把握するために、地域居住者を対象とした配布・回収型のアンケート調査を行った。アンケートの内容は一つの単純な質問に答えるものである。具体的には「この町におけるあなたが「大切だ」と感じる、もしくは、現在はないが「大切だった」と感じる場所はどこですか」という質問に対する回答と、具体的な場所の地図上への記入を求めるものである。また、その場所が大切だと思う理由を選択式回答（複数回答も可）で尋ねた上で、より詳細な理由を自由記述形式で記述する方法をとった。表-2に示す質問事項のアンケート調査と集落とその周囲を範囲として含む1万分の1の地形図を配布した。アンケートの選択肢の設定にあたっては、事前調査として当該地域の居住者へ行ったヒアリング調査（計12名、一人あたり30分から1時間）の結果を用いた。具体的には特定の場所を「大切だ」と感じる理由として、「歴史を感じる」、「遊びなどの思い出の場所」、「神様を感じる」、「美しい眺め」、「手入れされている（竹林、農地、池など）」、「先祖の魂を感じる（墓地など）」、「自然を感じる」、「よく集まる場所である」、「町のシンボルである」の9つを見出したため、これらをアンケートの回答選択肢として設定し、加えて「その他」の回答を用意した。また、その場所が誰にとって大切なのか（主体）、どの程度大切なのか（大切だと感じる程度）、その大切な理由の回答を求めた。大切だと感じる程度は3段階の選択式回答、主体については自由記述式回答によって回答を求めた。

表-2 アンケート調査の質問事項

質問事項
この町におけるあなたが「大切だ」もしくは、（現在は無いが）「大切だった」と感じる場所はどこですか。（大切な場所として下記に [1] ～ [10] の理由を挙げております。ご参照ください。） 見本をご参照いただき、次の手順でお答えください。 1. お住まいの場所を地図上にサインペンでご記入ください。 2. あなたが「大切だ」もしくは「大切だった」と感じる場所を地図上に（ぐるりと囲うように）記入し、そのとりに番号を記入してください。（どの丸がどの番号に対応するかが分かるように） 注：眺めが大切に感じる場合は、眺める方向に矢印を書き（複数可）、各々の矢印に対応する番号をお書きください。 3. その番号と、番号に対応する場所の名前を記入してください。
その場所を大切だ（だった）と思う理由は、次のうちどれにあてはまりますか。（いくつでもかまいません） [1] 歴史を感じるから [2] 遊びなどの思い出の場所だから（山遊び、水遊びなど） [3] 神様を感じるから（神事、祭事など） [4] 美しい眺めだから（山の眺め、木立、塚など） [5] 手入れされているから（竹林、農地、池など） [6] 先祖の魂を感じるから（墓地など） [7] 自然を感じるから（生物がいる、緑が豊富など） [8] よく集まる場所であるから（会議、お祭りなど） [9] 町のシンボルであるから [10] その他
その場所を大切だ（だった）と感じる理由を詳しく、ご自由にお書きください。（この場所で、こういう所がこう感じるから大切である、といった場所の特徴や印象、過去の記憶、その時期などをお答えください。）
その場所というのは、誰にとって（あなた個人なのか、町・村全体なのか）、大切だ（だった）と思いますか。
以上に挙げていただいた大切な場所の大切な度合いを三段階（3, 2, 1）に分けるとすれば、それぞれどの程度にあてはまりますか。その理由とともにお答えください。 3 かけがえのないもの、なくてはならないもの 2 とても大切なもの 1 大切なもの

アンケートの配布・回収部数、及び回答者の基礎データを表-3と図-4に示す。回答者は、60歳代を中心として40歳代から80歳代までが多く、全体の半数以上が50年以上在住の居住者である。アンケートは8地区から160部回収した。

3. 調査結果の概要と場所経験価値の分析

(1) アンケート調査結果の概要

本章では、大切だと感じる（感じた）場所の「大切だ」と思う理由」の回答結果を示した上で、各町の回答結果の特徴について分析を行う。場所の分類ごとの「大切だ」と思う理由」に対する選択式回答の結果を図-5に示す。

a) 大切だと感じる理由と場所の関係

図-5より、大切だと感じる場所としては、寺社が圧倒的に多く、次いで池、道、山と続いた。大切に感じる理由は、総数として「美しい眺めだから」が最も多く、谷以外の全ての場所で選択された。寺社や史跡は「歴史を感じるから」という理由で多く選択され、寺社は「神様を感じるから」という理由もあわせて認められた。

b) 町単位で見る共通性と個別性について

大切だと感じる場所の回答結果を地区別に整理した結

表-3 アンケート調査の配布・回収結果

配布地区	白毫寺	鹿野園	藤原	八島	窪之庄	山	高樋	虚空蔵	全
配布数〔部〕 (2011.12.11)	15	35	35	25	15	25	35	25	210
回収数〔部〕 (2012.01.17)	15	26	35	21	12	21	25	5	160
回収率〔%〕	100	74	100	84	80	84	71	20	76

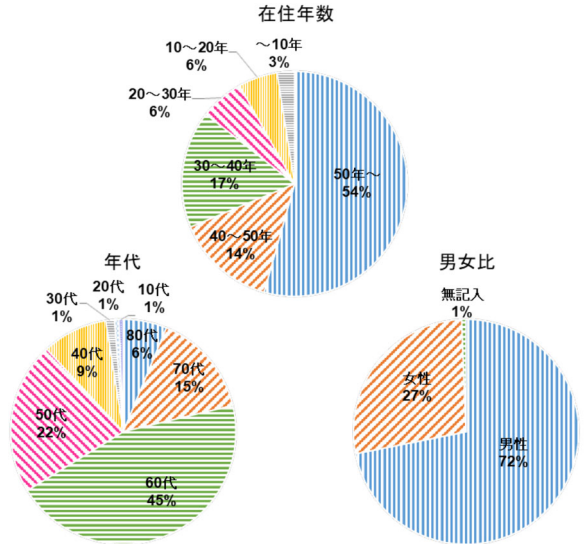


図-4 アンケート回答者の基礎データ

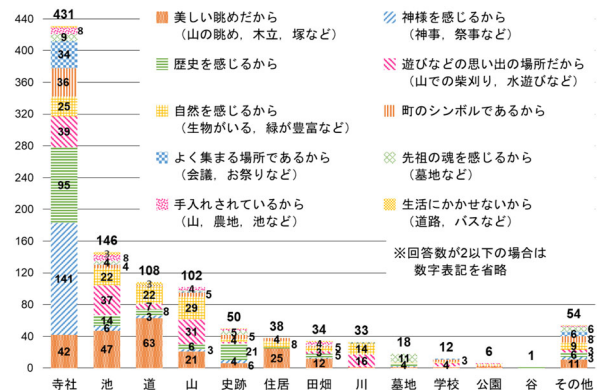


図-5 場所ごとの大切だと感じる理由の選択式回答結果

表-4 町別の大切だと感じる場所の回答結果

	白毫寺町	鹿野園町	藤原町	八島町	窪之庄町	山町	高樋町	虚空蔵町	総計
寺社	28	26	39	20	16	13	21	6	169
池	3	15	8	11	9	11	1	0	58
道	3	7	17	11	11	4	5	0	58
山	12	2	12	7	1	0	2	1	37
史跡	0	1	3	10	7	7	1	1	30
住居	2	2	7	2	2	3	4	0	22
川	3	3	5	1	1	0	3	0	16
墓地	0	0	8	1	1	2	1	0	13
田畑	1	0	1	1	4	0	5	0	12
学校	0	0	0	0	0	0	3	3	6
公園	2	0	0	0	0	0	0	0	2
谷	0	0	0	0	0	0	0	1	1
その他	1	2	4	4	0	3	8	0	22
総計	55	58	104	68	52	43	54	12	446

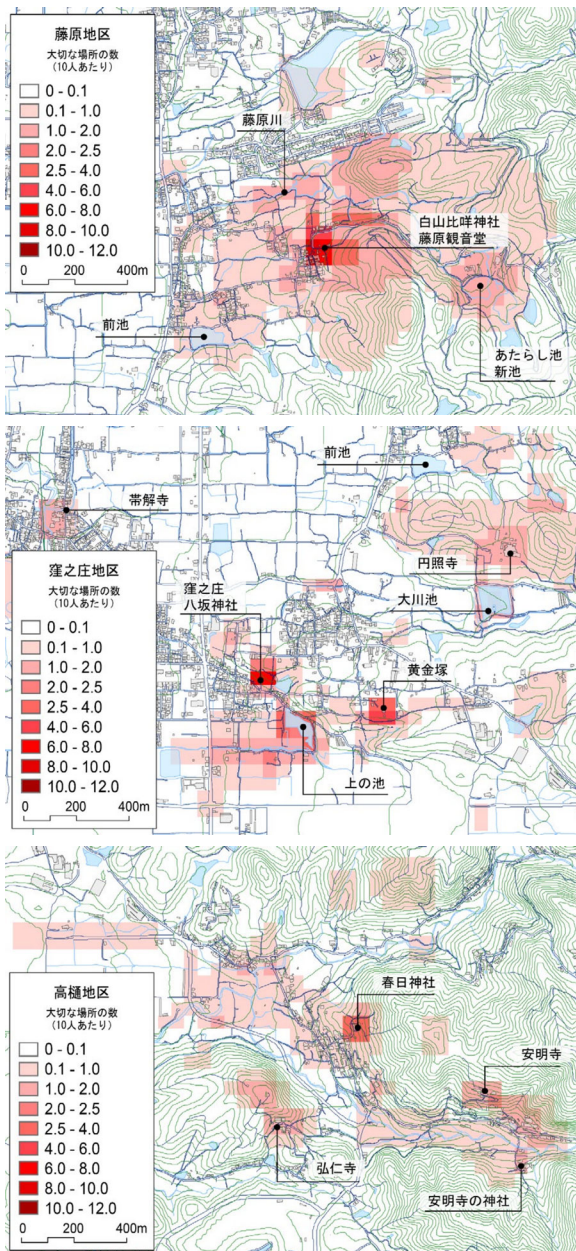


図-6 比較対象3町の大切だと感じる場所のプロット図

果を表-4に示す。全ての町に共通して寺社が多く挙げられている。他に多く挙げられている場所は池、道、山であるが、回答数の順は地区によってばらつきがある。そこで山裾に位置する北部の藤原町、南部の高樋町、平地に位置する窪之庄町の3つの特性の異なる町を取り上げ、「大切な場所」の特徴を比較、考察する。各町の大切に感じる場所を表したものを図-6に示す。赤色が濃いほど回答数が多い。

まず、3町のいずれも、町の中心部にある寺社に回答が集中している。寺社を大切な場所を選んだ理由としては、いずれの町も「神様を感じるから（神事、祭事など）」の回答が多い。これは各町で長年継続的に行われ

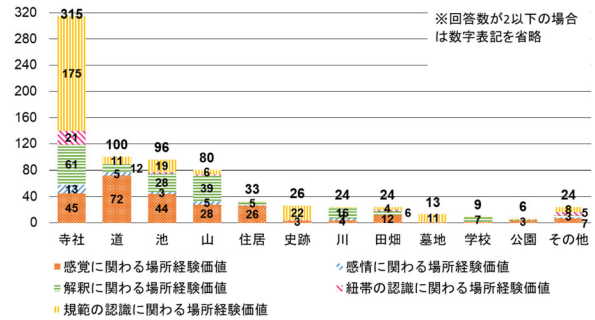


図-7 場所別の場所経験価値の回答数

てきた神事や祭事が住民の慣習となっており、その重要性が寺社という場所と一体的に捉えられているためと考えられる。この傾向は3町以外の町にも共通して認められる。

次に、山裾に位置する藤原町と高樋町を比較すると、藤原町は道、山、池が多く選ばれているのに対して、高樋町は農地（田畑）が多く選ばれている。藤原町は北や西に向けて眺望が開け、平地部に田畑が広がるのに対し、高樋町は南北の山々に挟まれた高低差のある地形で、その山間部に段状の田が広がる。高所にあり眺望にすぐれている点は共通している。

また3町を比較すると、窪之庄町は、窪之庄八坂神社や黄金塚、上の池、大川池に回答が集中するのに対し、藤原町、高樋町は山裾や田畑といった広がりがある眺望に優れた地点に対する回答が多く認められる。以上より、高低差のある町ではすぐれた眺望が評価される一方、高低差の少ない平地部の町では、山などの特徴的な地形がない代わりに、固有の特徴を有する個々の神社や池が大切な場所として認識される傾向がみられた。

(2) 場所経験価値の分析

本アンケート調査の「大切な理由」についての自由記述結果を用いて、場所経験価値の分析を進める^{注1)}。自由記述は、基本的に対象者が一つの場所に対して記述した全文を一単位とし、具体的な場所や大切な理由の記述がなされていない場合を除き、全ての記述を分析対象とする。

この分析によって場所経験価値に関する全750の記述を抽出した（一人あたりの平均数4.69）。これらを場所経験価値の種類ごとに分類し整理したものを表-5、表-6、表-7、表-8、および表-9に示す。

4. 場所経験価値に関する考察

(1) 奈良盆地東麓における場所別の資源性

場所経験価値の回答を場所別に図-7に整理した。その

結果、他に比べて寺社は、見出された価値の全体数だけでなく、その種類も多様である。とりわけ、規範の認識と強く関わっていることが確認できる。寺社は住民にとって特に強く大切であることに加えて、感覚、感情、解釈、紐帯の認識等、様々な意義を有しており、コミュニティにとって大切な場所であることが分かる。

また、道や池、山などにおいては感覚に関わる場所経験価値が、寺社と同程度かそれ以上に豊かであり、全価値の回答数も多い。これは本地域が地形変化に富み、眺望の優れた地域であることも少なからず関係していると考えられるが、昔からのなじみのある眺めが今も大きく変わらないことに対する肯定的な評価が目立った。一方で、手入れなどの環境管理の変化等による、美しさの喪失や場所利用の変化については否定的に捉えている傾向が強く、その場合は過去の記憶の想起により評価される場合もみられた。現在は荒廃した自然環境であっても、過去の経験の記憶がある住民には大切だと感じる場所になりえている。

(2) 感覚に関わる場所経験価値

「感覚に関わる場所経験価値」(SENSE)は、五感刺激による感覚や、その知覚イメージの経験に基づいた場所の価値であり、表-5に示す「景観の美しさ」(S1, 回答数200), 「自然の豊かさ」(S2, 回答数46)の2種の場所経験価値を確認した。

「景観の美しさ」(S1)は「生駒山遠望と夕日と水面が美しい」のように、生活の中で経験される美しい眺めや対象物に関する場所経験価値である。具体的には、山から市街地を一望できる眺望、ある時間帯や季節に見られる景色、山裾の町と田園の景色、山並み、人の手によって造られた建物や庭などが挙げられた。

「自然の豊かさ」(S2)は「エビ、ドジョウなどの生物がいて自然を感じる」のように、多くの生物や自然が身近に見られる場所や、稲などの植物の生長が感じられる場所における価値である。クヌギ林や池の中で見つけた昆虫や魚などの多様な生物、自然を残した草木や川や池、季節で変化する自然や田畑の作物の生長への気づきなどの価値が表された。

これらについては、他の価値に比べて体験が具体的に語られる傾向があり、聞き手は五感刺激の情報を想像して追体験することができ、その価値を比較的理解しやすいものとなっている。

(3) 感情に関わる場所経験価値

「感情に関わる場所経験価値」(FEEL)は、生活のなかで特別な感情をとまなう経験に基づく場所の価値である。具体的には、表-6に示す「安らぎ、癒し」(F1, 回答数18), 「誇らしさ」(F2, 回答数7), 「懐かしさ」(F3, 回答数4),

「深み、神秘さ」(F4, 回答数2)の4種の場所経験価値を把握した。これらは、自身がその場所を訪れた時に自然と生まれる感情が価値として語られる傾向がみられた。それは「何か」や「なんとなく」などの表現を回答者自身が用いていることから読み取ることができる。

「安らぎ、癒し」(F1)は、「春夏秋冬のにおいがするこの池の堤はとても心地よい」などのように、その場にいるだけで心地よさや安らぎが得られる場所経験価値である。道から見える田畑や古い町並み、寺社、池の堤、緑が多く感じられる道などで、安らぎ、癒し、心地よさ、落ち着きなどの価値が表れた。

「誇らしさ」(F2)は、「山々の裾野に自然と点在する家並みが自分のふるさとなんだと誇らしげに感じる」のように、自分の町に対して誇りを感じられる場所経験価値である。

「懐かしさ」(F3)は、「町内の景色もとても自然で美しく何か懐かしい」という表現にみるように、長年その町で暮らしてきた住民にとって懐かしいと感じられる場所経験価値である。

「深み、神秘さ」(F4)は、「森の中に小さな祠があってなんとなく神秘で歴史を感じる」のように、寺社や静かな祠などを訪れた際に神秘さや深遠さが感じられた場所経験価値である。

(4) 解釈に関わる場所経験価値

「解釈に関わる場所経験価値」(THINK)は、住民が暮らしの中で体験した場所に関する印象や思い出、意味に対する解釈に基づく場所の価値である。表-7に示す「なじみ」(T1, 回答数132), 「(想起される) かつてのにぎわい」(T2, 回答数40), 「(想起される) かつての姿」(T3, 回答数7)の3種の場所経験価値を把握した。これらは、その場所における過去の体験を自身で解釈した結果として、その場所の価値が見出されているものである。

「なじみ」(T1)は、「魚釣りや水泳などの遊びの思い出の場所」や「子供の頃は芝刈りに行った」など、幼少期の遊び場や芝刈りをした、なじみの深い場所の価値である。特に幼少期の遊び場に関する回答が多く、遊んだ頻度の多さが記述されている田畑や山などの場所(44), 山菜や蟹、魚などの動植物と触れ合える場所(31), 泳ぎやすい深さの川など、水や地形を活かした場所(20)が挙げられた。これらは、その場所における過去の自身の実体験の印象が強く残るものであるが、現在ではもうその体験をしない、もしくはできない場合が多く、過去の思い出として語られる傾向が強い。一方、「今も昔もそのままの姿」や「小さな頃から育ってきたふるさととして大切な景色」などのように、年月を経てなじみ深い場所になったものも見出された。具体的には、昔から知っている場所や里山やふるさとを感じる眺め、よく通る場所、

表-5 感覚に関わる場所経験価値の内容と自由記述の例

場所経験価値の種類		感覚に関わる場所経験価値 (SENSE)				
類型化の判断基準		暮らしの中で得た特定の場に対する視覚や聴覚などの五感におけるイメージに意味や価値を見出しているかどうか				
場所経験価値の カテゴリと抽出数		場所経験価値の サブカテゴリと抽出数		サブカテゴリ の概要	自由記述内容の例 (下線部は場所経験価値の分類基準に該当する文言)	場所
景 観 の 美しさ (S1)	200	(1) まちを一望 できる眺望	59	市街地を一 望できること	なんとも言えない <u>街並が広がっており、一望することができる</u> 。	寺社
					観光整備されていない <u>古都と空の広さが美しい</u> 。 <u>金剛山〜上狛(奈良盆地)の眺望</u> 。	寺社
					西側に <u>大和平野、生駒山系を見渡し、絶景である</u> 。	寺社
		(2) 朝・夕・夜の 景色	46	特定の時間 帯に美しい 景色を見る ことができる こと	西に <u>奈良盆地が見下ろせる</u> 。夜景が見える。美しい。下の畑が近く、暮らしが見える。	田畑
					西に見える夏場の <u>夜景が非常に美しかった</u> 。	寺社
					生駒山やその山並みに大きい <u>夕日が沈む時の自然の美しさ</u> がよい。	寺社
		(3) 山並み、丘	36	連なる山並 みや天皇陵 を見ることが できること	<u>日が昇るときの山々の姿</u> が美しい。四季折々の姿を見ていると心が和む。	山
					東側に見える山々が美しく、民家もあり見えない。 <u>星が綺麗に見える</u> 。	道
					東を向いたときに見える <u>高円山並の風景</u> が美しい。	山
		(4) 季節ごとの 自然	28	季節特有の 美しい景色 を見ることが できること	西に見える。 <u>金剛、葛城、生駒山脈の眺め</u> が素晴らしい。	寺社
					北に見える <u>崇道天皇陵が綺麗</u> 。	池
					北に見える。 <u>若草山方面</u> が美しい。西方向の <u>生駒山</u> もまた美しい。	住居
		(5) 山裾のまち や田園の景色	28	山裾に位置 するまちや 田園の景色 を見ることが できること	<u>秋になると特に紅葉</u> が美しい。	山
					若草山全体が見渡せる。 <u>枯れた冬</u> の山と、 <u>一面緑色の夏</u> の山等、一年を通じて自然 の美しさを見ることができ。	山
					<u>春は緑の中に桜、秋には山裾ゆるが如く絵に描いたように紅葉</u> が美しい。	道
自 然 の 豊かさ (S2)	46	(1) 自然のまま の草木や水	19	自然を残し た草木や川 や池を見る ことができる こと	今は、崇道天皇八島陵として、宮内庁が管理・整備されていて、前池南側よりの景色 が良く、 <u>冬、雪化粧した時</u> は、一見の価値がある。	史跡
					池から見える <u>街並み、田園風景</u> がきれいと感じる。	池
					<u>大和青垣の山々を背景に棚田の自然</u> が美しく感じる。	墓地
		(2) 建物、庭、道	3	人の手で造 られた美しい 景色を見る ことができる こと	子供の頃遊んでいた思い出の場所。 <u>稲穂が穂った長閑な田園風景</u> が美しい。	田畑
					外から町を眺める景色であり、 <u>緑の山、田園、空、そして小さな集落</u> を見渡せる。小さ な頃から育ってきたふるさととして大切な景色である。	道
					<u>建築物としての美しさ、特徴ある姿</u> 。	その他 (公民館)
		(3) 四季の発見	11	四季折々の 自然の変化 を視覚だけ でなく触覚や 嗅覚などの 五感で感じら れること	おじいさんが大工として、築いたものであるため。	寺社
					円照寺に付帯する <u>太師堂、その参道</u> が良好。	寺社
					<u>皇室ゆかりの美しい庭</u> のある寺があるから。	寺社
		(4) 田畑の作物 の生長	2	田畑に植え られた作物 の生長を観 察することが できること	<u>照葉樹林</u> で西陽が当たった山の濃緑色が映えてきれいで <u>原始の自然</u> を感じる。	山
					<u>自然の風景</u> で車も通らないし、西に見える景観が美しい。子供の頃良く遊んだ場所でも あり、神社の山林でもある。また山も深いのでいろいろな思い出の場所である。	寺社
					白山比咩神社の社と棚田の風景が美しい。一部、 <u>彼岸花や野花の群生</u> が見える。	道
		(2) 多様な生物	14	様々な生物 の存在を観 察することが できること	谷田池の護岸、宅地の擁壁などの人工物はあるものの、 <u>谷を囲む竹林</u> は素晴らしい。	池
					町が現在 <u>清澄の里と呼ばれているのもこの池があったから</u> である。またここから見る 眺めも美しく自然を感じる。	池
					<u>川のまわりの景色</u> がきれい。生物がけたくさんいて、 <u>川の段差に石を積んで傾斜づなっ ているのがおもしろかった</u> 。	川
		(3) 四季の発見	11	四季折々の 自然の変化 を視覚だけ でなく触覚や 嗅覚などの 五感で感じら れること	昔は水田が広がり、小川には、 <u>エビ、ドンウなどの生物</u> がいて自然を感じる事が出来 た。	田畑
					昔はクヌギ林などがあり、 <u>カブト虫などの昆虫</u> が多くいたが最近は少なくなった。	山
					今も高円山からの湧き水及び沢から入る綺麗な水が <u>生物の宝庫</u> で自然を感じる事が 出来る。	池
		(4) 田畑の作物 の生長	2	田畑に植え られた作物 の生長を観 察することが できること	西側に奈良市街の光と、生駒山を見渡せる。夕日や金星がきれいに見える。東側 に、青垣の山々が広がる。 <u>野鳥(川せみ、雀)</u> が生息しているし、 <u>フクロウや、鹿の声</u> が 聞こえる。	道
					自然が残っており、 <u>四季を感じる場所</u> である。	道
					<u>春夏秋冬におよぶ</u> この池の堤はとても心地よい場所です。	池
		(3) 四季の発見	11	四季折々の 自然の変化 を視覚だけ でなく触覚や 嗅覚などの 五感で感じら れること	時々自宅の近所を散歩し、景色を眺める。 <u>四季の移ろい</u> が美しいと感じる。	寺社
					小さい頃から通う小学校であり、今自分の子供も通っている。思い出の場所である。 <u>春には桜が咲き、秋から冬にかけて干し柿が窓一面に干されてとても綺麗である</u> 。	学校
					<u>春、田んぼの蓮華草に寝転がって空を眺めた。草木を積んで</u> 持って返って、家の中 で生けた。 <u>夏、カブト虫、クワガタ虫を見つけた</u> 。田んぼのあぜ道にクヌギの木 があり、丁度子供が行きやすい場所であった。	その他 (町全体)
		(4) 田畑の作物 の生長	2	田畑に植え られた作物 の生長を観 察することが できること	この場所は高台であり、向かいに見える山は現在紅葉しており美しい眺めである。子 供の頃は、芝刈りもしたし、キノコ取りもした。水田を眺めると区画がよく分かり、米を つくっている時期は、 <u>水稲などの生育状態の確認に時々立ち寄る</u> ところである。また その向こうは、昔陸軍射撃場であったが、現在では、住宅地となっている。変化に富 んだ景観である。	山
					奈良盆地とその向こうに矢田山、生駒山が見える景色が綺麗。手前の田畑は手入 れがなされ <u>作物も育ち、"生"を感じる</u> 。	住居

表-6 感情に関わる場所経験価値の内容と自由記述の例

場所経験価値の種類		感情に関わる場所経験価値 (FEEL)			
類型化の判断基準		暮らしの中で生じた特定の場合への感情に意味や価値を見出しているかどうか			
場所経験価値の カテゴリと抽出数		場所経験価値の サブカテゴリと抽出数	サブカテゴリ の概要	自由記述内容の例 (下線部は場所経験価値の分類基準に該当する文言)	場所
安らぎ、癒し (F1)	18	(1) 安らぎ	8	この間の道路には、田畑と古い町並みがあり 心が安らぐ 。	道
				そこから見る風景は年々変わっていくけれど、人々の暮らしを思うことがあって、 穏やかな気持ち になる。	寺社
				今も昔もそのままの姿であり、中へ入っていくと静かで 安らぎを感じる 場所でもある。子供の頃、竹の子堀りに行った場所である。	山
				白山神社はむかしから、我が村を守ってくれていると信じ、村民が大切に、 心の安らぎを求めた 場所である。	寺社
				歩道沿い真横に見える里山の木々の緑、自然が 心を和む 。 ^{注2}	山
				歩道沿い真横に見える里山の木々の緑、自然が 心を和む 。 ^{注2}	山
				日が昇るときの山々の姿が美しい。四季折々の姿を見ていると 心が和む 。	山
				高樋町の現存する建物の中で一番高台にあり手入れが行き届き 心が休まる 環境である。	寺社
		(2) 癒し	4	四季の移ろい、 心が癒される 。	寺社
				夏の夜に蛍が舞う風景は、 心が癒される ものがあり、地域の誇れる自然環境であるから	川
				水田のために必要である。生物もいて、 癒される 。	池
				心が癒される 。町民の心のよりどころ。	寺社
		(3) 心地よさ、 気持ちよさ	3	春夏秋冬のにおいがするこの池の堤はとて 心地よい 場所です。	池
				堤防は周りより少し高いので、 気持ちがよい 。	池
		(4) 落ち着き	3	万葉カンツリーからくぐってくと、高台から藤原の田が見下ろせる場所で、四季を感じる美しさがある。カンツリーへいく車で行き来はあるが、空気が澄んでいるところで、 気持ちがよい 。	道
				落ち着いた 雰囲気と昔の武家屋敷がある。	寺社
				家から東に見える山並み(特に紅葉の頃)を見ると 落ち着く 。	住居
				緑が多い、 落ち着いた 気持ちになる。空気が美味しい。	道
誇らしさ(F2)	7	(1) 誇らしさ	7	夏の夜に蛍が舞う風景は、心が癒されるものがあり、地域の 誇れる 自然環境であるから	川
				不動明王は悪魔を降伏させすべての障害を打ち砕くと言われ、町民からは親しまれ昔から大切に守られて来た。町の 誇り のお不動さんである。	寺社
				奈良市の文化財であり大切に守るべきものであり、 誇り に思う。	寺社
				町のシンボルであり、町の 誇り である。又正月、お祭などの集まりはコミュニケーションの場でもある。	寺社
				神事、祭事などで神様を感じる。山の中の高いところにおられる神様に 誇り に思う。	寺社
				ポツポツと見える電灯の景色が帰ってきたと思う。山々の裾野に自然と点在する家並みが自分のふるさと(当たり前だから)なんだと 誇らしげ に感じる。	その他 (町全体)
				高樋町を眺める景色である。車の喧騒もなく四季折々の山の色を見ると、疲れも飛んでしまう。この山並みは 自慢できる 場所。	道
				子供の頃の遊び場。すかんぽや果物、アケビなどが豊富に取れた。チャソバごっこや秘密基地の遊びも 懐かし く、今の子供でも楽しいのではないかと思う。	山
懐かしさ(F3)	4	(1) 懐かしさ	4	子供の頃の遊び場。どじょうや沢蟹、たにし、えびなどが豊富に取れた。この川遊びを 懐かし く思う。今の子供も遊ぶことができれば楽しいだろうと思う。	川
				神社から見下ろす町内の景色もとても自然で美しく何か 懐かしい 気持ちになる。	寺社
				池では水遊びをした。子供の頃に 懐かしい 。	道
深み、神秘さ (F4)	2	(1) 深み	1	きれいに手入れされている。拝観されていないので、 なんとなく深みがある 。俗化されていない。	寺社
		(2) 神秘さ	1	森の中に小さな祠があって なんとなく神秘 で歴史を感じる。	寺社

親しみが湧く場所などが挙げられた。

「(想起される) かつてのにぎわい」(T2) は、祭事や運動会などで人が多く集まり、賑やかだった頃の過去の情景を想起する場所や、人の往来を見かけたり、綺麗に手入れがなされている場所の価値である。村の賑やかさや他者の存在に思いを馳せる点に価値が見出されている。

「(想起される) かつての姿」(T3) は、「五十塔が見え、約千年以上前の人と同じ風景を見ていると感動」などのように、数百年前の歴史的な情景をイメージとして想起する場所の価値である。また、温泉を掘っていたと

いう特殊な経験に基づく場所の価値も見出された。

(5) 紐帯の認識に関わる場所経験価値

「紐帯の認識に関わる場所経験価値」(RELATE) は、住民が、その場所の存在の認識や、場所での経験を通じて、他者との関わりを実感することができるような経験に基づく場所の価値である。具体的には、表-8に示す「共同体とのつながり」(R1, 回答数30)、「先人とのつながり」(R2, 回答数4) の2種の場所経験価値を把握した。これらについては、その場所で誰と過ごすか、もしくは

表-7 解釈に関わる場所経験価値の内容と自由記述の例

場所経験価値の種類		解釈に関わる場所経験価値 (THINK)				
類型化の判断基準		暮らしの中で見出された特定の場に対する解釈に意味や価値を見出しているかどうか				
場所経験価値の カテゴリと抽出数		場所経験価値の サブカテゴリと抽出数		サブカテゴリー の概要	自由記述内容の例 (下線部は場所経験価値の分類基準に該当する文章)	場所
なじみ (T1)	132	(1) よく遊んだ場所	44	遊んだ頻度が多い場所	遊びなどの思い出の場所だから。皆が集まって遊べる場所だから。	寺社
					よく遊んだ思い出の場所。白毫寺全体が遊び場になっていた。	寺社
					小さいころ川、池で遊んでいた。水ももって綺麗であった。	川
		(2) 動植物と触れ合う場所	31	動植物を自らの手で触ったり取ったりすることができる場所	子供の頃の遊び場。すかんぼや果物、アケビなどが豊富に取れた。チャンバラごっこや秘密基地の遊びも様々しく、今の子どもでも楽しいのではないかなと思う。	山
					子供の頃、蟹を取ったり、小川にはメダカやゲンゴロウなどがいたりした。	川
					春、田んぼの蓮華草に寝転がって空を眺めた。草木を積んで持って返って、家の中で生けた。夏、カブ虫、クワガタ虫を見つけた。田んぼのあぜ道にクヌギの木があり、丁度子供が行きやすい場所であった。	その他 (町全体)
		(3) 地形や水を活かした遊び場	20	開けた場所や斜面、少し深い水辺などでしかできない遊びをした場所	魚釣りや水泳などの遊びの思い出の場所である。	池
					子供の頃の遊んだ場所。神社、寺、池。池は冬の間に水を抜くため、池の堤防でよく遊んだ。	寺社
					弁天様をお祭りしてある塚である。塚の上に昔から弁天様を祭ってある。塚の中は広く中で遊んだことがある。	田畑
(4) 芝刈りをした場所	9	昔、山仕事で芝刈りをしていた思い出の場所	子供の頃は芝刈りに行ったり、秋にはたくさんのマツタケがとれたりした。	山		
			小学校の頃は家の燃料に、山に芝刈りの行くのが日課になっており、山も良く手入れされていて、山でよく遊んだ。	山		
			今も昔もそのまゝの姿であり、中へ入っていくと静かで安らぎを感じる場所でもある。子供の頃、竹の子掘りに行った場所である。	山		
(5) 昔から知っている場所	9	幼少のころからずっとそこにあった場所や変わらぬ景色	何十年経っても景色があまり変わらない。	住居		
			池の手前には御霊神社の社。その向こうに見える村の風景が美しく、昔のままの景観と考えるから。	池		
			昔から古い様子の木がある。	寺社		
(6) 里山、ふるさとの暮らし	9	里山の暮らしや自分のふるさととしてのイメージを形成する場所	古民家の白壁群が田舎を象徴している。	住居		
			割合によく手入れの出来た里山である。	山		
			外から町を眺める景色であり、緑の山、田園、空、そして小さな集落を見渡せる。小さな頃から育ってきたふるさととして大切な景色である。	道		
(7) よく通る場所	4	散歩や生活動線として通る頻度の多い場所	子供の頃に良く歩いた場所である。小高いところから南方(和歌山方面)の山々がとても美しく鹿野園に残った理由の一つである。(田舎へ都会への転居を考えた時)	道		
			時々自宅の近所を散歩し、景色を眺める。四季の移ろいが美しいと感じる。	寺社		
			夏は山陰で涼しく、さまざまな草木虫、道路に沿って長く伸びる街並み、季節や人々の暮らしを感じながら散歩するのが楽しみであった。現在は半分くらいかも知れない。	道		
(8) 母校	4	幼少期から残る母校	小さい頃から通う小学校であり、今自分の子供も通っている。思い出の場所である。春には桜が咲き、秋から冬にかけて干し柿が窓一面に干されてとても綺麗である。	学校		
			母校であるから。	学校		
			皆がこの小学校で世話になったから	学校		
(9) 親しみのある場所	2	親しみが湧く場所	不動明王は悪魔を降伏させるすべての障害を打ち砕くと言われ、町民からは親しまれ昔から大切に守られて来た。町の誇りのお不動さんである。	寺社		
			古くより水汲み場と井戸とお地藏様があって、親しみのあるお地藏様である。	寺社		
			氏神様が祭られており、毎年10月には秋祭があり、他にも祈念祭や、水鏡平和記念祭、八朔祭がある。	寺社		
(想起される) かつてのにぎわい (T2)	40	(1) お祭りの場所	26	主に幼少期の賑やかだったお祭りを思い起こす場所	夏には獅子舞、秋祭り、太鼓台。	寺社
					初詣、節分などのお祭りや皆の憩いの場所である。お祭には子供御輿、当家のおわたり、子供の御輿には大人も皆で参加する。	寺社
					歴史がある。4月13日の虚空蔵さん祭りは、子供の頃の一番の楽しみであった。親戚がたくさん集まって会ったのが楽しかった。	寺社
		(2) 人々が利用や手入れをする場所	11	多くの人の利用や自然等に対する人の手入れが感じられる場所	木や竹が生い茂っていて、自然豊かで散策に良い場所だった。小さい頃は、皆が結構通る道だったし、思い出深い。黄金塚も天皇一族の墓といわれており、歴史を感じる。	道
					高槻町の現存する建物の中で一番高台にあり手入れが行き届き心が休まる環境である。	寺社
					有志により草刈及び花の植え付けなどしているが、なかなか大変である。	田畑
		(3) 運動会をした場所	3	幼少の頃に運動会をしていた場所	虚空蔵さんの山の上の広い運動場で、小学生の頃は秋の運動会をしていた。山の上からは下は大和平野が一望できて本当に美しい。	山
					小さい頃はここ運動会をしていた。奈良盆地が一望できる。	山
					昔は山頂に運動場があり、小学校時代に運動会を行っていた。今は、草木が生い茂り、跡形もなくなってしまっているのが残念である。	山
(想起される) かつての姿 (T3)	7	(1) 遠い過去を思い浮かべる場所	6	歴史の重みや遠い昔の景色に思いを馳せる場所	町の氏神様である。小さな社ではあるが、昔は戸数も少なく、また、貧しい中で苦労を重ねて社を普請して守ってきたと思う。先祖に感謝している。	寺社
					五十塔が見え、約千年以上前の人と同じ風景を見ていると感動。	池
					北に見える若草山、東大寺、興福寺の五重塔。奈良時代の古い歴史がすぐそばにあるように感じ、権力争いをしているような、何か身震いがする。	道
(2) 温泉が湧いていた場所	1	かつて温泉が湧いていた場所	昔温泉があり、40年ほど前は川を掘ると湯が湧いていた。今は、橋はぼろぼろになったが、夏は涼しく水遊びには最適な場所である。	川		

表-8 紐帯の認識に関わる場所経験価値の内容と自由記述の例

場所経験価値の種類		紐帯の認識に関わる場所経験価値 (RELATE)							
類型化の判断基準		暮らしの中で感じられた特定の場においての他者とのつながりに意味や価値を見出しているかどうか							
場所経験価値のカテゴリと抽出数		場所経験価値のサブカテゴリと抽出数		サブカテゴリの概要	自由記述内容の例 (下線部は場所経験価値の分類基準に該当する文言)	場所			
共同体とのつながり (R1)	30	(1) 集い	18	人々がよく集まって関わる ことができる こと	遊びなどの思い出の場所だから、 <u>皆が集まって遊べる場所だから</u> 。 ^{注③}	寺社			
					遊びなどの思い出の場所だから、 <u>皆が集まって遊べる場所だから</u> 。 ^{注③}	寺社			
					神事を通じ、地域の <u>交流</u> の場所になっている。	寺社			
					神事、お祭りなどの行事を通じて古くからの慣習を感じることができるとともに、 <u>地域コミュニティの中心</u> 的な場所であるから。	寺社			
					町内の会議など <u>集会</u> の場所として必要である。	その他 (公民館)			
					<u>良く集まる</u> 場所であり町のシンボルである。	寺社			
					学校から帰ると <u>仲間、友達が集まり</u> 毎日のように遊んだ。かくれんぼ、缶蹴り、紙芝居など。	その他 (集会所)			
					大神楽がやってきて獅子舞や芸の披露は真夏の楽しみ、秋の頃になれば組んだ舞台で田舎芝居など、豊作を祈って太鼓台を担ぎ練り歩く勇敢な光景など、祭事や行事に <u>よく集まる</u> 場所で、鎮守の神様として信仰があつい。	寺社			
					<u>集会、会議、会合</u> 他必要な場所。	その他 (公民館)			
					前池の雑魚取りが一番の楽しみであった。エビやモロコなど村人 <u>皆で楽しんで</u> 良き思い出である。	池			
					町のシンボルであり、町の誇りである。又正月、お祭などの集まりは <u>コミュニケーション</u> の場でもある。	寺社			
					お祭り、町内掃除の時、 <u>よく集まる</u> 場所である。	寺社			
		神社の下座に公民館があり、 <u>会議</u> なども行われている。2月11日には <u>初集合</u> がある。	寺社						
		農協が村からなくなり、かつて <u>生活の基盤とも言えた求心的な存在が消え、人々が個々にバラバラに生活している</u> ように思う。	その他 (農協跡)						
		氏神様を祀ることで自分たちが守られているという思いを抱くかどうかは人それぞれだが、少なくとも氏神様という存在の元に <u>人々が集う</u> ということに、そこで村人としての自覚を抱くことに意味がある。	寺社						
		初詣、節分などのお祭りと <u>皆の憩い</u> の場所である。お祭には子供御輿、当家のおわたり、子供の御輿には大人も <u>皆で参加</u> する。	寺社						
		歴史がある。4月13日の虚空蔵さん祭りは、子供の頃の一番の楽しみであった。 <u>親戚がたくさん集まって</u> 会うのが楽しかった。	寺社						
		子供から老人まで、政事や行事、掃除や集会で <u>つどう</u> 場所。	寺社						
		毎年町内では <u>組当番</u> で神事、祭事が行われる。観音様が安置されている。 <u>町内の万青女性部が組当番で月一回供花や清掃活動を行っている</u> 。 ^{注③}	寺社						
		毎年町内では <u>組当番</u> で神事、祭事が行われる。観音様が安置されている。 <u>町内の万青女性部が組当番で月一回供花や清掃活動を行っている</u> 。 ^{注③}	寺社						
		(2) 協力	12	人々が力を 合わせて協 力すること ができること	水遊びなどは大人が昼寝している間に小川、山地で存分に楽しむ。稔りの秋は山の栗とり、畑の柿を失敬して怒られた思い出もある。寒くなると、東山で芝刈りや、松葉とりをして、駄賃をもらおうと嬉しかった。暖かくなると、田んぼのつくりや山菜を取った。何時も <u>誰かを誘い合って自然の恵みを共有してきた</u> 場所である。	山			
					正月三が日は当座(5軒)総代(3人)自治会、 <u>みんなでお参りのお迎えをして</u> 町民の安全と健康などをお祈りしている。2月11日の新なめ祭9月1日のこもり10月9日の秋祭り11月23日の新しう祭等で町の安全、豊作などを祈願している。 <u>自治会を中心に運営</u> している。		寺社		
					氏神様が祭られて、いろいろな祭事によって <u>町内の絆が生まれる</u> ことが良い。		寺社		
					神事に関わる役の時には、 <u>町内の代表として、緊張感を持って従事する</u> ものの、楽しみもありました。	寺社			
<u>村のグループの人が手入れをしている</u> ので風景が美しい。のどかな自然風景を感じる。氏神様も <u>村の人が守っている</u> のが美しい。	田畑								
五つ塚は今の整然と残っている。地元では、奈良市文化財保存課の委託を受け毎年草刈りなど、管理の仕事を受け <u>自治会の年間行事として受け継いでいる</u> 。	史跡								
毎年、春日神社の八朔の後にこの神社でも食事を持参し、お祈りすることになっている。 <u>町の東の垣内21軒で守っている</u> 。社は <u>皆で補修などをしながら守っている</u> 。	寺社								
近くの寺で昔から虚空蔵さんとして <u>皆で盛り上げてきた</u> 寺で日本三休として多く参拝された場所である。	寺社								
<u>舎人講や自治会が力を合わせ</u> 昔の形を残す様に頑張っている。安明寺の神社と同様に大切なものとして守ってきたい。	寺社								
<u>有志により草刈及び花の植え付けなどしているが、なかなか大変である</u> 。	田畑								
先人とのつながり (R2)	4				(1) 人との思い出	4	過去の人との 関係の思 い出すこと ができること	遊具のある公園、桜の木、多目的広場、飛鳥中学校から聞こえるクラブ活動の声、市内を見渡すことができるベンチなど、 <u>子供が小さい頃から今もよく一緒に遊んでいた</u> 公園であり、 <u>この成長とともにいくつもの思い出がある</u> 場所である。	公園
								水遊びなどは大人が昼寝している間に小川、山地で存分に楽しむ。稔りの秋は山の栗とり、畑の柿を失敬して怒られた思い出もある。寒くなると、東山で芝刈りや、松葉とりをして、駄賃をもらおうと嬉しかった。暖かくなると、田んぼのつくりや山菜を取った。何時も誰かを誘い合って自然の恵みを共有してきた場所である。	山
		建築物としての美しさ、特徴ある姿、 <u>おじいさん</u> が大工として、築いたものであるため。	その他 (公民館)						
					子供の頃の泳ぎの場所、 <u>母親</u> の洗濯の場所であった。	池			

誰を思っ過ぎておすかが主に記され、その他者を大切に思っ気持ちや自身との関係性が重要な価値として表された。

「共同体とのつながり」(R1)は、「皆が集まって遊べる場所」など、住民が集い、同じ町に住む共同体としてのつながりが感じられる場所に対して見出されている場所経験価値である。伝統的な神事、町内の清掃など、人が集まり、他者と協力して活動した経験が目立って記述された。

「先人とのつながり」(R2)は、「おじいさんが大工として、築いたもの」など、過去に同じ時間を過ごした人を想い出し、その時の情景や感情を想起させるところに価値が見出されている。

(6) 規範の認識に関わる場所経験価値

「規範の認識に関わる場所経験価値」(ACT)は、住民がある場所を大切だと思う背景に、町や村のコミュニティで共有されている価値観が強く関わる経験に基づいた場所の価値である。その場所の経験には、その場所の存在を認識すること自体も含む。

具体的には、表-9に示す「信仰」(A1, 回答数126)、「歴史・伝統」(A2, 回答数82)、「風習・神事・習慣」(A3, 回答数31)、「生活の基盤」(A4, 回答数21)の4種を見出した。他の場所経験価値と異なり、自身の直接的な体験である以上に、暮らしの中で身につけた規範が大きく関わっている。

「信仰」(A1)は、「氏神様が祭られていて町中を守っている」などにみるように、先祖の墓や神社など、自身や町を守ってくれている先祖や神様の存在を感じる場所に関するものである。具体的には、神様や先祖という存在そのもの、自身や町が守られているという思い、町のシンボルなどが大事にする対象として見出された。多くの住民はこの考えを当然のこととして認識している。回答記述からは、幼少期から自身の親と共に参拝や清掃を行い、大人たちが真摯に信仰する姿を見るという経験の蓄積によって、この価値意識が形成されるという可能性がうかがえる。

「歴史・伝統」(A2)は、「歴史を感じ、日本人として大切に必要性を感じる」などの表現にみるように、文化財や古刹など、歴史的・文化的な価値が見いだされる場所に関するものである。その価値の見出し方として、古びた御堂など、空間の要素から歴史的価値を想像する見出し方、文化財指定や伝説など、他者からの評価に基づく価値の見出し方、自身の知識をもとに歴史的価値を推察する見出し方が認められた。

「風習・神事・習慣」(A3)は、「伝統行事の継承の中心」のように、住民が長年の習慣として大事に管理し、守ってきた場所に関するものである。

「生活の基盤」(A4)は、「水田のために必要」のよう

に、ため池や田畑など、生業のために必要不可欠な場所や、「自宅を説明するのに昔から使っていた」のように、日常生活を送るうえで必要不可欠な場所に関するものである。

(7) 場所経験価値に関する考察

a) 大切だと感じる程度の強さ

場所経験価値の程度の大きさについて、図-8に示すアンケートの「大切だと感じる程度」の集計結果をもとに考察する。回答数の少ない「感情に関わる場所経験価値」(FEEL)と「紐帯の認識に関わる場所経験価値」(RELATE)以外の場所経験価値に着目すると、「規範の認識に関わる場所経験価値」(ACT)は、三段階評価の最上位である「かけがえのないもの、なくてはならないもの」の評価が5割強と大きく、他の場所経験価値に比べてその割合が高い傾向にある。また、最上位の評価の内訳をみると、「規範の認識に関わる場所経験価値」(ACT)は、5種の場所経験価値の中で最も回答数が多い。

他の場所経験価値は、三段階評価のなかで概ね均等に評価されており、大切だと感じる程度の強さに関わらず価値が見出されていると考えられる。

b) 評価主体としての個人・集団における差異

回答した場所が「誰にとって大切か」という質問に対する回答の結果を図-9に示す。全体を通じて「自分一人」と「住民全員」に評価が集中した。「感覚に関わる場所経験価値」(SENSE)は、「自分一人」として大切だとする回答が、住民全員にとって大切だとする回答の倍以上と多かった。これは得られた経験が主観的・個人的な体験に基づいており、十分には他者と共有されていない価値であるためと考えられる。また、「感情に関わる場所経験価値」(FEEL)は、「自分一人」と「住民全員」のそれぞれに評価が分かれた。

「解釈に関わる場所経験価値」(THINK)と「紐帯の認識に関わる場所経験価値」(RELATE)、「規範の認識に関わる場所経験価値」(ACT)は、「住民全員」として大切だとする傾向が強いという結果を得た。これは、その場所での経験や場所の価値認識が同じ地域に暮らす住民にとって共通性の高いものであることを示している。このように、場所の価値認識の共有のされやすさは、その場所経験価値の特性によって異なることが分かる。

5. 結論

本研究は、住民が暮らす日常生活圏内の場所に対する価値づけのあり方とその具体的特徴を明らかにするため、経営分野の手法を援用した独自の場所経験価値の評価手法を新たに提案し、その有効性を示すものである。具体

表-9 規範の認識に関わる場所経験価値の内容と自由記述の例

場所経験価値の種類	規範の認識に関わる場所経験価値 (ACT)				
類型化の判断基準	暮らしの中で規範化されている特定の場における行動や考え方に意味や価値を見出しているかどうか				
場所経験価値の カテゴリと抽出数	場所経験価値の サブカテゴリと抽出数	サブカテゴリ の概要	自由記述内容の例 (下線部は場所経験価値の分類基準に該当する文言)		場所
信仰 (A1)	(1) 神様という存在	61	神様という存在自体を大事にする考え	氏神様であるから。	寺社
				氏神様が祭られていて、町を守っていると思う。	寺社
				不動尊を祭っているから。	山
				村の中心(氏神)が祭られているから。	寺社
	(2) 町が守られているという思い	39	自身や町が守られているという思想を大事にする考え	暮らしのごく身近な祈りの場所で、鎮守の森、氏神様と関わりながら、暮らししてきた大切な森。	寺社
				氏神様が祭られていて、農家の豊作を祝って守っていると思う。	寺社
				氏神様が祭られていて、村を守っている。	寺社
				綺麗な日没が見られる。生駒山。夜景の綺麗な奈良の街が見える。奈良をやさしく守ってくれているような生駒山系	道
	(3) 先祖の存在	16	先祖の存在を大事にする考え	町内の守り神だから	寺社
				私たちの先祖がおられるから。	墓地
				先祖代々自分たちの魂を大切に守っているところである。	墓地
				個人だけではなく、村の先人たちの歴史が感じられる場所。	墓地
	(4) 町のシンボル	10	町のシンボルを大事にしようとする考え	街のシンボルである。	寺社
				良く集まる場所であり町のシンボルである。	寺社
				氏神様は町内の大切なシンボルであり、町内全体を守っているから大切にしているの	寺社
				で、大切にしている。	寺社
歴史・伝統 (A2)	(1) 評価された歴史	40	公的な評価や伝説など、その歴史的価値が評価され、有名であることに基づく考え	万葉人も愛していた山であるから。	山
				また大人になって、神社の歴史や変遷を知ることによって、祭事を含めて、大切に守らねばと思っている。	寺社
				歴代の天皇ではないが町名の由来となったと言われているから。	史跡
				奈良市の文化財であり大切に守るべきものであり、誇りに思う。	寺社
	(2) イメージとしての歴史	37	空間から読み取った想像上の歴史的観点に基づく考え	宅春日の名称に歴史を感じる。	寺社
				歴史的に大切だと感じる。	史跡
				いつから祭られているのか知らないが、歴史を感じる。	寺社
				歴史を感じ、日本人として大切にすることを必要を感じる。	史跡
	(3) 解釈を伴う歴史	5	自身の解釈による歴史的価値に基づく考え	井戸とお地蔵様。いつの時代かの山中から奈良への街道の水汲み場であったのではない。	寺社
				森本遺跡と繋がっていて、塚本も弥生時代の遺跡が繋がっているところであると、個人的に考えている。	史跡
				元々産土神が祭られていたと思われるが、明治の中盤あたりから鎮守さんになったように聞いている。昔は八島郷であったと聞いているので、神社が変わったのではない。	寺社
				神事、お祭りなどの行事を通じて古くからの慣習を感じることができるとともに、地域コミュニティの中心的な場所であるから。	寺社
風習・神事・習慣 (A3)	(1) 風習・神事・習慣	31	風習や歴史ある神事、日々の習慣を遵守しようとする考え	昔は、年に一度の水抜きの際に、泥だらけになって魚を追う子供たちや青年たちの姿が見られた。	池
				神事、祭事が行われる大切な場所である。	寺社
				氏神様が祭られていて町中を守っていると思う。毎月一日にお参りに行っている。	寺社
				水田のために必要である。生物もいて、癒される。	池
生活の基盤 (A4)	(1) 生業の基盤	12	農業等の生業のために不可欠な基盤を大事にしようとする考え	昔は池水は農業にとって大切なため池であった。近年は、岩井川のダムにより、水の放水でゆたかな水のありがたさを感じる。又防火用水としても大切な池である。	池
				芝刈りや、きのこ採り、山菜とり等、子供の遊び場兼、仕事場でもあったから。	山
				災害時の避難場所にも指定されているから。	その他(連絡所)
	(2) 日常の基盤	9	日常生活を送るうえで不可欠な基盤を大事にしようとする考え	自宅を説明するのに昔から使っていたから。	その他(時計台)
				子供から老人まで、政事や行事、掃除や集会でつどう場所。	寺社

的には、場所経験価値モジュール (PEPM) を用いたアンケート調査結果の考察を通じて、感覚に関わる場所経験価値、感情に関わる場所経験価値、解釈に関わる場所経験価値、紐帯の認識に関わる場所経験価値、規範の認識に関わる場所経験価値に類型化し、その場所経験価値の全体像とそれぞれの価値の具体的な内容とその特徴、場所や経験主体、価値を感じる程度の大きさとの関わりにつ

いて考察した。具体的な成果は下記の通りである。

1) 奈良盆地東部 8 地区における大切な場所についてのアンケート調査を通じて、大切だと思う場所の傾向とその理由を明らかにした。最も目立ったのは、神様と歴史を感じられる寺社であったが、池や道、山なども、その美しい眺めや遊びの想い出とともに、大切な場所として高く評価されていることを示した。

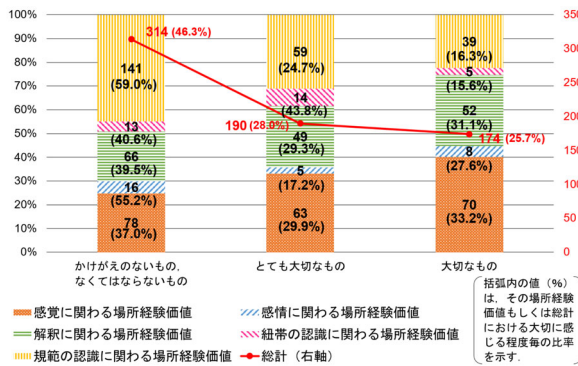


図-8 大切だと感じる程度別の場所経験価値の回答数

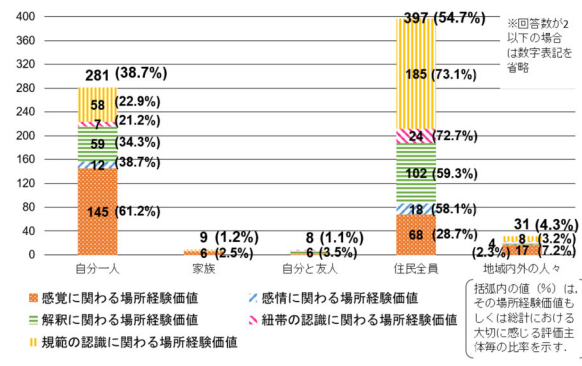


図-9 大切だと感じる主体別の場所経験価値の回答数

2) 場所経験価値モジュール (PEPM) を用いて、経験に基づいた場所の価値を5種に類型化し、その価値のありかたを検討した。その結果、最も目立った寺社においては多様な場所経験価値が見出されており、特に住民全員にとって大切と評価される傾向のある規範の認識に関わる場所経験価値が多かったことから、個人の枠組みをこえて集団で価値が共有される傾向が大きいことを示した。一方で、道や池、山などの自然環境とその景観も大きく価値が認められ、環境そのものの価値のほか、人々の行為や活動に関連した価値が見出される傾向が大きいことを明らかにした。

3) 場所経験価値モジュール (PEPM) によって類型化した5種それぞれの内容を考察した。感覚に関わる場所経験価値は、五感刺激や知覚イメージに関する場所の価値であり、景観の美しさや自然の豊かさに価値が見出された。感情に関わる場所経験価値では、安らぎや癒し、懐かしさ、誇らしさ、古めかしさや神秘さを感じる事が場所の価値として見出された。解釈に関わる場所経験価値は、なじみや想起されるかつての姿に場所の価値が見出された。紐帯の認識に関わる場所経験価値では、共同体や先人とのつながりに場所の価値が見出された。規範の認識に関わる場所は、信仰、歴史・伝統、風習・神事・習慣、生活の基盤に関する場所の価値が見出された。

上記の結果の通り、場所経験価値の具体的内容の検討により、その多様性を明らかにした。また、今回のアンケート調査結果では、表-5から表-9で示したように個人差のある詳細な自由記述全ての内容を5つの場所経験価値のいずれかに分類し、体系的に整理することが可能であった。これにより本研究で提案した、場所経験価値モジュールを用いた場所経験価値の評価手法は、一定の有効性があると示すことができたと考える。また、自由記述の回答結果が曖昧な表現となっている場合、調査者の捉え方によって場所経験価値の分類が異なる可能性があり、高い精度での分析は今後の課題である。また、今後

より汎用性の高い手法とするためには、様々な立地特性や文化的背景を有する地域を対象として、回答の数と種類を増やすことや、分析フレームに当てはめる基準に対して回答の文言をどのような観点で分類するかに関する知見を蓄積し、より基準を明確にすることなどが考えられる。

謝辞：本研究の遂行にあたり、奈良市内8地区の住民の皆様には多大なご協力を得た。ここに厚く謝意を表す。

補注

注1) 具体的な分析手順を以下に示す。

[1] PEPMにおける下記の5つの判断基準に当てはまる文言を抽出する。

- ・ 場所に対する視覚や聴覚などの五感に関わるイメージに意味や価値を見出しているか (感覚)
- ・ 場所に対する感情に意味や価値を見出しているか (感情)
- ・ 場所に対する解釈に意味や価値を見出しているか (解釈)
- ・ 場所における他者とのつながりに意味や価値を見出しているか (紐帯の認識)
- ・ 場所にかかわる規範化された行動や考え方に意味や価値を見出しているか (規範の認識)

[2] 抽出した文言と全体の記述内容の文脈から、場所経験価値の内容を示す「サブカテゴリー」を設定し、類似の内容のものは同一のサブカテゴリーとして統合し、整理する。なお、一つの記述の中に基準に当てはまる文言が複数含まれる場合には、その全てを抽出し、それぞれについて最も近いサブカテゴリーを選択する。従って、アンケートの回答数よりもサブカテゴリーの回答の数が多くなる可能性がある。

[3] これを全回答に対して行う。

[4] 複数のサブカテゴリーの分類を包括する集合を「カテゴリー」として設定する。

注2) 夫婦で同じ場所に対して同じ記述をしているため、同じ

記述内容が並んでいるが、それぞれ個別の回答であるため、そのまま記載する。

注3) 記述内容は同じだが、同一人物が異なる場所に対して記述した内容であるため、そのまま記載する。

参考文献

- 園田美保：住区への愛着に関する文献研究，九州大学心理学研究，第3巻，2002.
- 城月雅大，園田美保，大槻知史，呉宣児：「まちづくり心理学」の創出に向けた基礎理論の構築—計画論と環境心理学の橋渡しによる地域再生のために—，名古屋外国語大学現代国際学部 紀要，第9号，2013.3
- エドワード・レルフ（高野岳彦，阿部隆，石山美也子 訳）：場所の現象学，ちくま学芸文庫，1999.
- イーファー・トゥアン（小野有五，阿部一 共訳）：トポフィリア，せりか書房，1992.
- Altman, I. and Low, S. M.: *Place Attachment*, Springer, 1992.
- Manzo, L. C. and Perkins, D. D.: Finding common ground : The importance of place attachment to community participation and planning, *Journal of Planning Literature*, Vol. 20, No. 4, 2006.
- 引地博之，青木俊明，大淵憲一：地域に対する愛着の形成機構—物理的環境と社会的環境の影響—，土木学会論文集 D, Vol. 65, No. 2, pp. 101-110, 2009.4
- 鈴木嵩之，石川徹，貞広幸雄，浅見泰司：都市施設が居住者のまちへの愛着に及ぼす影響に関する研究，公益社団法人 日本都市計画学会 都市計画論文集，Vol. 46, No. 3, 2011.10
- 斎藤和夫，石崎裕幸，田村亨，梶谷有三：都市のイメージ構造と地域特性の関係に関する研究，土木計画学研究・論文集，No. 14, 1997.9
- 越田益生，志水英樹：都市における地下景観のアイデンティティの形成過程と構成要素—都市における地下景観のアイデンティティ（その1）—，日本建築学会計画系論文集，第529号，pp. 195-202, 2000.3
- 中村良夫，北村眞一，矢田努：地点識別に基づく都市景観イメージの解析方法に関する研究，土木学会論文報告集，第303号，1980.
- 森田哲夫，入澤覚，長塩彩夏，野村和広，塚田伸也，大塚裕子，杉田浩：自由記述データを用いたテキストマイニングによる都市のイメージ分析，土木学会論文集 D3（土木計画学），Vol. 68, No. 5（土木計画学研究・論文集第29巻），pp. I_315-I_323, 2012.
- 直井岳人，十代田朗，飯島祥二：観光地としての歴史的町並みにおける地元の生活の様相—訪問客のまなざしの対象と，それに対する住民の評価—，公益社団法人 日本都市計画学会 都市計画論文集，Vol. 48, No. 1, 2013.4
- 山口美緒，横張真，渡辺貴史：住工混在地域における居住者の心象風景の解明，日本都市計画学会学術研究論文集，第36回，pp. 745-750, 2001 年度
- 村川三郎，西名大作，安野淳：住民による地域の伝統的みどり景観の評価構造に関する研究，日本建築学会計画系論文集，第509号，pp. 77-84, 1998.7
- 麻生恵，堀江篤郎：岡山県蒜山地域における景観計画と地域住民の景観認識構造について，造園雑誌，Vol. 56, No. 5, pp. 205-210, 1993.
- 須賀伸介，大井紘，原沢英夫：自由連想調査を通じた湖環境に対する住民意識の研究，環境科学会誌，Vol. 4, No. 2, pp. 103-114, 1991.
- 古賀誉章，高明彦，宗方淳，小島隆矢，平手小太郎，安岡正人：キャプション評価法による市民参加型景観調査—都市景観の認知と評価の構造に関する研究（その1）—，日本建築学会計画系論文集，第517号，pp. 79-84, 1999.3
- 山下三平，丸谷耕太，栗田融：陶芸の里・小石原皿山の景観表象の把握と評価—実存的景観論の試み—，土木学会論文集 D1（景観・デザイン），Vol. 73, No. 1, pp. 1-20, 2017.
- 青野幸子，加我宏之，下村泰彦，増田昇：泉北丘陵端部の農村地域における地形特性から捉えた居住者が好む風景魅力の解明，ランドスケープ研究，Vol. 68, No. 5, 2005.
- 木下勇：三代への聞き取りによる農村の自然の教育的機能とその変容，日本建築学会計画系論文報告集，第450号，1993.
- 吉村晶子：原風景の生成に関する研究，ランドスケープ研究，Vol. 67, No. 5, 2004.
- 姫野由香，佐藤誠治，小林祐司，金貴煥：イメージスケッチを用いた観光地における印象的な景観場の特性分析，都市計画論文集，No. 38-3, 2003.10
- 高木清江，松本直司，瀬尾文彰：詩的イメージ構造の特性—環境の〈詩性〉に関する研究（その3）—，日本建築学会計画系論文集，第537号，pp. 133-140, 2000.11
- 肥田野登，細谷隆己，村松和彦：祖父母との思い出空間に着目した多世代住宅に関する研究，日本建築学会計画系論文集，第517号，pp. 115-122, 1999.3
- 上井萌衣，後藤春彦，吉江俊：東京下町で共有される地域の記憶とその伝承がなされる集団に関する研究—東京スカイツリー開発以前の世代がもつ下町像に着目して—，公益社団法人 日本都市計画学会 都市計画論文集，Vol. 51 No. 3, 2016.10
- 赤木徹也，鯉坂誠之：認知言語学的アプローチに基づく都市空間の概念化に関する基礎的研究—既成市街地の住居系地区を対象として—，日本建築学会計画系論文集，第77巻，第679号，pp. 2043-2052, 2012.9
- 中野宏幸，高梨博子：日米アジアの観光都市におけるインバウンド旅行者との対話的交流による地域アイデンティティの形成に関する研究，交通学研究，第62号，pp. 69-76, 2019.
- 呉宣児：語りから見る原風景—語りの種類と語りタイプ，発達心理学研究，第11巻，第2号，pp. 132-145, 2000.
- 呉宣児：地域デザインにおける「原風景」の共同性—理論的・実践的モデルの考察—，MERA, 第18号，2006.2
- 原将也：アフリカ農村における移入者のライフヒストリーからみる移住過程—ザンビア北西部の多民族農村における保証人に着目して—，公益社団法人 日本地理学会，E-journal GEO, Vol. 12, No. 1, pp. 40-58, 2017.
- 高瀬雅弘：戦後開拓地における学校と地域社会(2)—教師たちから見た1950年代の新制中学校と開拓地—，弘前大学教育学部紀要，第122号，pp. 23-35, 2019.10

- 33) 川崎千恵：高齢者にとって地域活動に参加するということー離島の地域におけるエスノグラフィーー, 日本公衆衛生看護学会誌(JJPHN), Vol. 7, No. 3, 2018.
- 34) 飯村直子：小児科一般外来における看護師の働きーある地域密着型中規模病院におけるエスノグラフィーー, 日本看護科学会誌, Vol. 34, pp. 46-55, 2014.
- 35) バーンズ・H・シュミット（嶋村和恵，広瀬盛一訳）：経験価値マーケティング，ダイヤモンド社，2000.
- 36) 長沢伸也，大津真一：経験価値モジュール(SEM)の再考，早稲田国際経営研究，No. 41, pp. 69-77, 2010.
- 37) Brakus, J. J., Schmitt, B. H. and Zarantonello, L.: Brand experience: What is it? How is it measured? Does it affect loyalty?, *Journal of Marketing*, Vol. 73, pp. 52-68, May 2009.
- 38) Schmitt, B.: Experience marketing: Concepts, frameworks and consumer insights, *Foundations and Trends in Marketing*, Vol. 5, No. 2, pp. 55-112, 2010.

(Received March 23, 2020)

(Accepted December 25, 2020)

A STUDY ON EVALUATION METHOD OF PLACE'S EXPERIENTIAL PROPERTY IN DAILY LIVING AREA

Ryoma YUKAWA, Keita YAMAGUCHI, Yoshiaki KUBOTA
and Masashi KAWASAKI

The purpose of this study is to clarify how to value places by focusing on important places for inhabitants in the daily living area where they live. Specifically, we conducted a questionnaire survey of eight districts in Nara City. We devised a new framework to better understand how place's experiential properties are based on mental images, emotions, interpretation, ties and norms by building on a concept of Strategic Experiential Modules, which is used in the management field. Then, we showed the concrete contents of each value and clarified the overall picture. As place's experiential properties, the following features, degree of recollection, relation with places were clarified: 1) beauty of the scenery and richness of nature related to the mental images, 2) comfort, healing, nostalgia, pride, oldness and mystery related to emotions, 3) familiar or remembered appearance related to interpretation, 4) connection with community and predecessor related to ties, 5) faith, history, tradition and custom related to norms. This demonstrates the effectiveness of a new method for evaluating the value of places as local resources based on residents' experiences.